

# ウクライナ問題・私見

大阪大学・高部英明

【本原稿は外国語学部ロシア語専攻の林田先生に頂いた小林氏の「ウクライナ問題・暮らしの視点」に関する記事に対して、違和感を持った。そこで、私の経験も踏まえ、実感しているウクライナ事情を簡単にまとめて、皆さんの意見を喚起したいと正直に書いてみた。2014.8.31-9.1】

7月11日から27日まで、ブルガリアの首都ソフィアに6泊、後は、ドイツのドレスデン、ケルン、ダームシュタットと友人を訪ねて女房と旅をしてきた。7月24日、ケルンから特急でダームシュタットに移動しようと、大聖堂横のケルン中央駅から川を渡った一駅目の駅で特急を待った。隣にいたこれからタイに遊びに行くという若者カップルと話しながら電車を待つ。

電車が来た。私達の1等車は最後尾。プラットフォームと車両のフロアに50cm程度の段差がある。彼等が先に乗り、乗ろうとしたら4名が乗ってきた。私達二人がポストバッグを引き上げようとするのを「親切にも」助けてくれる。しかし、バッグが上がりきる前に、ポシェットのジッパーが空いていることに気づき、助けてくれている奴の腕を握った。しかし、財布はない。直ぐ、4人は逃げていった。女房もハンドバッグの口が空いて、財布を取られた。この電車はあきらめて、降りて追いかけたが、4人はプラットフォームのフェンスの間を抜けて道路に出て、ばらばらに逃げた。追うのをあきらめた。

とにかく、ケルン中央駅に戻り、警察に届け出た。書類を作る間に、まずは、Credit Cardsの会社に電話し、カードを失効させる。警察からは「悪い奴が沢山いるから、注意しなければだめじゃないか」と英語で怒られた。「毎日、20件は盗難の届け出があるんだ」とのこと。34年前にミュンヘンに住んでいた時は、ドイツは安全な国で有名であり、ロマ（「ジプシー」は差別用語。こう表現）も国境で警察に追い返されていた。

先日、週刊新潮にドイツの現状の記事があった。現在は民族的に非ドイツ人がドイツには300万人のトルコ人始め20%もいるそうで、ドイツ人の少子化から、その比率はさらに大きくなる見込み。また、ロマもEUの構成員と認められていて、EU内を自由に移動できるとのこと。

そして、今日(8/31)、文藝春秋 SPECIAL「新戦争論」を買い、読んでいたら、佐藤優氏が対談で以下のように発言していました。「ドイツに行って美味しいビールを飲んでシュニツェルを食べる。その店で働いているウエイトレスは大体チェコ人かハンガリー人。そして、材料の豚肉はハンガリー産。ハンガリーの養豚場で働いているのがウクライナ人、飼料もウクライナから来ている。こ

れが、EU の実態」。



EUは低賃金労働を期待してウクライナを歓迎し、同国内の80%を占めるウクライナ人はEUにあこがれて加盟を望む（真相はさらに複雑だが）。図1のように東部に多い15%のロシア系はロシアとの連携を望んでいる。ウクライナは西側がウクライナ人が多いが、相対的に貧しい。東側はそれに対し、工業も盛んで、資源も豊富。東のロシア人は「豊かな俺たちが何故、貧しい西に税金を分配しなきゃいけないんだ。東で独立してロシアと仲良くしよう」と思うのも当然。更には、首都キエフの近くにあるチェルノブイリの放射能漏れ防止対策に国家予算の10%を未だに必要としているそうだ。

国家分断を認めない新政権は東の親ロシア民兵をテロリストとして軍隊を派遣した。ここには国籍を明らかにしない覆面の民兵も多数いた。西側は「あれわロシアの軍隊だ」というが、プーチンは「そうではない。ロシアは関知せず」とつい最近まで主張してきた。しかし、ある意味ではこれは正しい。あるロシア人から聞いた話。ロシアには多数のマフィアがいる。大金持ちは多数の屈強なボディガードを必要とする国だ。一説にロシアの正規軍は100万人、非正規軍は200万人、と教えてくれた。非正規軍とは上のマフィアや用心棒、退役軍人など。

プーチンは国民に愛国心を訴えている。愛国心に駆られた非正規軍の兵隊（日本の右翼に相当）が、勝手に国境を越えてウクライナ東部で親ロシアの民兵に武器弾薬を与え、かつ、戦闘に荷担している。だから、プーチンは「私は命令などしていない」と強気で言える。実態を知っていても。それが政治。しかし、

この28日、自体は急変した。以下のように報じられている。「北大西洋条約機構 (NATO) は28日、ウクライナ領内で「1000人を優に超える」ロシア軍兵士らが活動しているとの見解を発表し、その証拠とされる衛星写真を公開した」。

7月1日～6日にロシアに出かけた際、ロシアの研究者が言っていた。「ウクライナ内戦以来、ウクライナの製品が手に入らなくなり困っている。日用品にウクライナ製が多いせいだ」と嘆いていた。ロシアのスーパーで見た品物にはドイツ製の製品がとて多かった。ロシア製より独語の品物が多くあった気がする。



EUなどのロシアへの経済制裁はマレーシア機撃墜後、強化され、さらに、ロシア軍の介入でさらに厳しくなろうとしている。ロシア人もかなり音を上げているだろうし、ロシアからウクライナを経由して天然ガスを大量に利用しているEUの多数の国では、冬までに何とかしないと凍え死ぬかも。どうも、EUとロシアの我慢比べの感がしてきた。

さて、ケルンで抜き取れた財布。不用意にも海外で使わないカードまで入れていたので、後が大変だった。免許証、共済保健証、生協会員券、クレジット3枚、病院カードなどなど。免許証は門真に再発行に二人で出かけた。クレジットは新しいのが送付された。VISA Goldは、失効の連絡をした段階で、シンガポールから翌日にはダームシュタットのホテルに、9月まで有効なカードがUPSで図3のように届いた。無料サービスに関心。現金が全てなくなり、当日はダームシュタットのホテルのレストランで部屋に付けで夕食。2日後にはこのカードで支払い。



先週、Dusseldorfの日本総領事館から電話があった。「貴方と奥さんのものと思われる免許証が入った財布が二つ、ケルン警察から送られてきました。現金はありませんがカードや免許証などが入っています。郵送を希望しますか」という問い合わせ。驚きました。もちろん、送付願いたいというと「郵送料を先払いしてください。詳しくはPDFを送りますのでメール・アドレスをお教えください」という。届いた書類に従い、「郵便局で以下の所要額5.6ユーロを当館「住所宛てに送金」願います」と指示され、郵便局に出かけたら、日本円にして777円送るのに手数料が2500円かかるという。怒りました。このネット社会

に JP は 30 年は遅れている。

さて、ウクライナ問題。9/1 にプーチンが「東部のロシア系の住民の分離独立を認めてはどうだ」と言い出した。これは聞き捨てならぬ。チチェンを含め国内の独立問題という過熱気味の油に火を注ぐことになるのでは無かろうか。米国とはチチェンなどはテロリストということで「反テロ」で手を握ったプーチン。今後、目が離せない。もし、分離独立に動けば「民族自決」を唱える中国のウイグルやチベット、内モンゴルなどの独立運動が加熱するだろう。加えて、9/18 に国民投票で独立の採否を決めるスコットランドで独立派が勝利すれば、冷戦後の新たな世界地図を塗り替える時代を迎えるような気がする。グローバル化の時代に独立運動。一見矛盾するようだが、グローバル化があぶり出す差別がこのような行動に人々を駆り立てるのではないか。EU 議会に EU 反対の議員が増えたこともその事実を物語る。

さて、私なりのウクライナ問題の理解を書いた。さらに詳しい時系列でのウクライナの情勢は、例えば以下のサイトなどある。

「ウクライナ情勢 2014 随時更新」

<http://matome.naver.jp/odai/2139365412862908401>

単一民族で世界の中でも相対的に安全な日本にいて、地続きの国境を持つ国の感覚は良く理解できない。しかし、旧ソ連ではスターリン時代に国内の民族の大移動を強制し、自治共和国内で民族同士をいがみ合わせて、国内の安定を図るという非人道的なことが行われた。チェチェン人はその最たる例だそうである。そして、第 1 次世界大戦後独立したバルト 3 国も、1940 年に強制的にソ連に併合された。ロシア人に対する敵愾心は街を歩いてもピリピリ感じると、軍人の父を 80 年代の学生時代に訪ねたというロシア人の友達が言っていた。

最後に、「新戦争論」の最初の対談記事も PDF で添付します。ウクライナについては 16 頁からあります。参考にしてください（イスラム世界がこんなに混沌としている理由が興味深い）。